



冬が目前に迫り、日が短くなるとともに、朝晩寒くなってきました。
本年も残り僅かですが、よろしくお願いします。

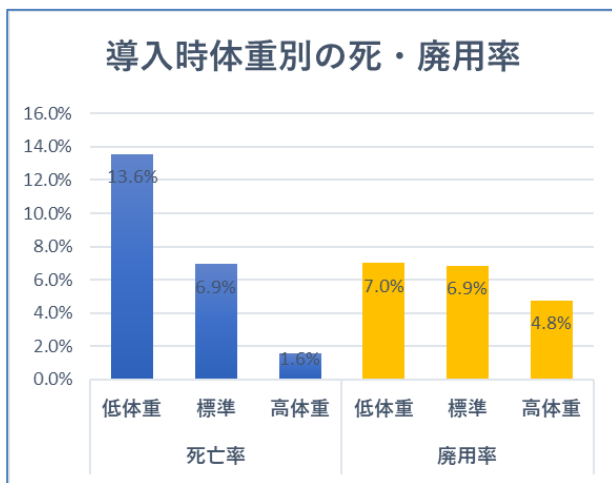
岐阜県ホルスタイン共進会に出品しました。

11月11日（木）に関家畜流通センターにおいて「第6回岐阜県ホルスタイン共進会」が開催されました。東濃牧場からも第4部に「ツルク ズィーム ワイズ マ」号を出品し、第4部1位に選出されました。



生後数か月間の影響 その1

東濃牧場での過去10年間での導入日齢の平均は51日齢です（R2年から上牧待機していただき85日齢と伸びております）。導入時の体重*において、低体重、標準体重、高体重の3分類すると、その後の死亡率が低体重群13.6%に対し、高体重群では1.6%と大きな影響を及ぼすことが分かります（下図※死亡率が高く出ていますが、年々減少傾向にあります。特に新牛舎設置以降、死亡率が低下しています）。その内訳をみると、特に感染症（肺炎、下痢）での死・廃率が高いことが分かりました。北里大学の研究によると低体重の子牛で感染症に対する粘膜防御の低下が生じていることがわかっています。



これまで「遺伝で全てが決まる」と考えられてきましたが、近年代謝プログラミングという概念が受け入れられつつあります。胎児期、哺乳期などの初期発育の栄養刺激が遺伝子修飾を起し、その影響が生涯続いているようです。三つ子の魂百までといいますが、哺乳期の飼養方法は生涯にわたってその生産性（増体、乳量、繁殖性）に影響を及ぼします。元気な子牛生産にご協力をお願いします。※標準発育曲線から算出した[日齢毎の推奨体重]と[実体重]との差で評価し、日齢の違いを補正しています。導入時の体重が推奨発育値から+15kg以上を高体重、+15~-15kgを標準、-15kg以下を低体重としています。

東濃まきば館の今年の営業が終了しました。

東濃まきば館の今年の営業が11月7日（日）に終了しました。今年は、東濃まきば館をご利用いただきました。ありがとうございました。来年の営業は、3月下旬からで、通常の営業は、土、日、祝日のみですが、団体でのご利用につきましては平日も要相談とのことですので、どうぞご利用ください。



（子牛の上牧については、出生報告書を牧場FAX 0573-56-2146 にご連絡下さい。）

1. 乳用雌子牛の導入状況

年度別導入状況

	R3年10月	R2年10月	H31年10月
年間目標頭数	450頭	420頭	420頭
子牛導入頭数	51頭	62頭	38頭
4月～累計頭数 対目標頭数比	226頭 50.2%	311頭 74.0%	246頭 58.5%

10月購入(平均) : 83日齢 体重96kg 94,211円

2. 初妊牛の譲渡状況

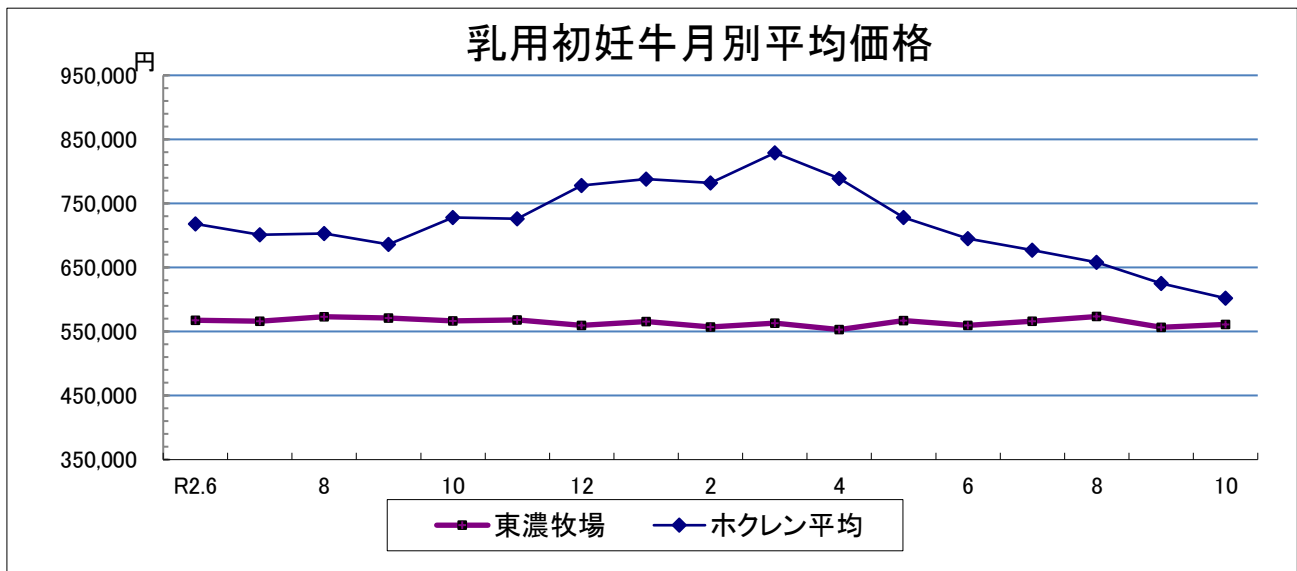
(1)年度別譲渡状況

	R3年10月	R2年10月	H31年10月
年間目標頭数	480頭	480頭	460頭
譲渡頭数	40頭	45頭	49頭
4月～累計頭数 対目標頭数比	263頭 54.7%	340頭 70.8%	261頭 56.7%

(2)譲渡価格の推移

10月の北海道市況について、ホクレンの平均価格は、602千円(前月比23千円安)となっています。

東濃牧場の10月平均譲渡価格:561千円)



3. 初妊牛の発育状況

R3年10月評価牛の発育状況

	体重(kg)	体高(cm)
東濃牧場譲渡牛(R3年10月:21月齢)	546	138
標準発育値(21ヶ月齢)	548	142